

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿〈2月13日（金）放送分〉

テーマ「奄美の民話や昔話」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今日は、毎月第2金曜日にお届けする、「奄美の民話や昔話」シリーズの第11回、与論町の昔話「蛇^{じゃしん}身の美しい男と乙女^{おとめ}の恋」です。

昔々、あるところに、それはそれは人目をひく、美しい乙女とその母が暮らしていました。母は美しい娘の成長を何よりの楽しみにしていました。

やがて、娘が十六歳を迎える頃になると、娘はまるで、ほころびようとする^{つぼみ}蕾のように、美しく、愛らしい乙女になりました。

すると、村の若い男たちは、娘に対する悩ましい胸の内を、「高い^{こずえ}梢に咲いている花は、登って採ることは難しい。下^{したえだ}枝を握って、思い慕^{した}うばかりである。」と歌うのでした。しかし、娘は男たちの歌に、どう答えてよいのか分からずに、いつも困ってしまうのでした。

ある夜のことでした。それはそれは聴く人々の耳を疑わせるような、美しい蛇味線^{じゃみせん}の音色が、娘の家に近付いてきました。この島では、「ヤユイ」と言って、昔から若い男たちが、思い慕う娘の家に、親公認^{もと}の下で毎晩のように通って遊ぶ風習^{やはん}があったのです。早速、母は若者を庭の縁側^{えんがわ}に座らせました。そして若者と娘は、夜半まで歌ったり踊^{おど}ったりして遊びました。

やがて、そのような夜が幾^{いくつき}月か過ぎていきました。若者は世にも珍しい程の美男子で、さらに若者が弾く蛇味線の音色も美しく、若者の歌も素晴らしいものでした。いつしか若者は娘の心をとらえ、娘は若者に対して想いを寄せるようになりました。

娘は、若者の蛇味線に合わせて、「私は、深い山に咲いている花なのに、どうしてあなたは、尋ねておいでになりましたか。」と歌いました。

すると若者は、「深い山に咲いていても、浅い山に咲いていても、花が恋しいから、^{にお}匂いで来ましたよ。」と答えるのでした。

娘は、若者に対する想いをさらに強くしましたが、どうしても不思議に思うことが、三つありました。一つ目は、若者が来て蛇味線を弾き始めると、必ず母が居眠りをしてしまうことでした。二つ目は、若者が決して自分の背後を見せず、帰るときにも後退^{あとずさ}りをしていくことでした。三つ目は、若者がどこの生まれで、誰であるということを決して明かさないうことでした。それでも、娘は若者のことがますます好きになるばかりでした。

ある日、娘は苦しい自分の胸の内を母に打ち明けました。すると母は、「それは不

思議なことだね…。私の居眠りを誘う程の蛇味線の音色や歌といい、麗^{うるわ}しいほどのその容姿といい、もしかすると…天から下った神の子か、海から遣^{つか}わされた使いの者か、それとも地から湧^わいた動物の精^{せい}霊^{れい}なのか…。」と言いました。そして娘に、「明日の晩、針の穴に芭蕉^{ばしょう}の糸を通しておき、気付かれないように、若者の袖^{そで}口に糸を縫い付けておきなさい。」と言いつけました。

次の日の夜、いつものように若者が家に来ると、娘は母から言いつけられたとおりに、芭蕉の糸を若者の袖口に縫い付けました。

翌朝、母と娘は、芭蕉の糸を辿^{たど}っていきました。二人は糸を手繰^{たぐ}り寄せながら、男が住んでいる家を尋ねていきました。芭蕉の糸は、竹やぶや、大きな木の根や、岩の下を通して、こんもりと木が茂った岩山に続いていました。やがて、芭蕉の糸は、大きな老木が根を張った、岩穴の中に続いていました。二人がその岩穴の奥へ^へと入って行くと、そこには体に針が刺さった大きな蛇^{へび}が、苦しそうに、のたうち回っていました。あの美しい若者の正体は、大きな蛇だったのです。

それからというもの、村では、夜遊びをする年頃になった娘は、遊びに来た若者の名前を、親に知らせる習慣になりました。また親は、夜遊びが終わるまで、起きている慣^{なら}わしになったということです。

さて皆さん、今回のお話はどうでしたか。かつて与論島には、夜に若者が娘の家に行き、娘の親が公認する中で、歌や踊りで遊ぶ風習があり、「ヤユイ」と呼ばれていました。この「ヤユイ」は、結婚相手を選ぶ場でもあったようです。残念ながら現在では途絶^{とだ}えてしまったようですが、たとえ異性との楽しい出会いの場であっても、相手の親に対する礼^{れい}節^{せつ}を忘れない、清^きく正^よしい男女交際だったようです。贈り物の交換などもあったようですから、相手の親に気に入られようとする若者は、大変だったことでしょう。

このように奄美図書館には、郷土に伝わる昔話を紹介した本がたくさんあります。ぜひ図書館にいらして、いろいろな本を手にとってほしいと思います。職員一同、皆様のご来館を心よりお待ちしております。以上、鹿児島県立奄美図書館でした。